

福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会
ふくしま風力発電関連産業推進検討部会 発足趣旨

1 趣旨

2016年9月に福島新エネ社会構想実現会議で決定された「福島新エネ社会構想」では、福島全县を新たなエネルギー社会のモデル創出拠点とすることとしており、その一環として、福島県内で阿武隈地域を始めとした大型風力プロジェクトが計画されている。これが実現されれば、国内有数の風力発電導入規模となり、これを契機に多くの県内企業による関連事業への参画が期待されている。それに伴う課題解決に取り組むため、風力発電事業者、地元自治体、国や県、関係機関が連携した新しい枠組みを福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会の下に構築し、継続的な検討を実施するもの。併せて、関連産業の集積に不可欠な人材育成についても検討を行う。

2 背景

福島県では、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故後、原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会を目指し、再生可能エネルギーの導入と関連産業の育成・集積を進めている。

2012年7月には、「福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会」（以下、再エネ研究会）を設立し、再生可能エネルギー分野における、産学官によるネットワークを形成し、研究開発と産業人材の育成等を行うことで県内事業者の技術基盤の強化を図り、当該分野への進出等を促進し、関連産業を振興している。

また、2017年4月には、これまでの取組を更に拡大・発展し、福島県が再生可能エネルギー関連産業分野におけるトップランナーとして、産業界全体で、当該分野の企業数、雇用者数、生産額等を国内トップクラスに押し上げるための推進母体として、「エネルギー・エージェンシーふくしま」を設立した。再生可能エネルギー分野における県内企業の新技術の開発、ビジネスモデルの創出、事業化等が一層促進されるよう、企業間のネットワーク構築やマッチング、販路開拓や海外連携支援等を通じ、福島発の新たなビジネスプロジェクトの創出を一体的に支援している。

3 経緯

上述した背景の下、福島全县を新たなエネルギー社会のモデル創出拠点とすることを旨とする「福島新エネ社会構想」において再生可能エネルギーの大量導入が掲げられているのに加えて、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために取りまとめられた、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」では、廃炉、ロボット、農林水産等の分野と並んで、エネルギー分野が掲げられている。現在、プロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等に取り組んでいる。具体的には、福島県沿岸部・阿武隈地域共用送電線による再エネ導入を進めており、特に、阿武隈地域において大型の風力発電プロジェクトが進行しており、多くの県内企業の参画が期待されている。

こうした中で、風力発電導入や関連産業の集積・人材育成を進めるにあたっての課題解決に取り組むため、国・県・市町村による検討を重ねた。この検討を踏まえ、今般、新たに風力発電事業者、地元自治体、関係機関も参加する検討の場を設けることとなった。

4 構成メンバー（参集範囲） ※体制図を参照

- (1) 風力発電事業者
 - (2) 風力発電立地市町村
 - (3) 関係機関
 - (4) 国
 - (5) 福島県関係課室
 - (6) アドバイザー（東大 石原教授、東大先端研 飯田特任准教授）
- 事務局（福島県産業創出課、経産省福島新産業室、いわき市産業創出課）

5 今後の予定

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 2019年2月 | 第1回 |
| 4月下旬 | 第2回（発電事業者の取組紹介、立地市町村の取組紹介等） |
| 6月 | 第3回 |
| 8月 | 第4回（中間とりまとめ） |